事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和6年　3月 1日

公表：令和6年3月22日

事業所名：阿久比町児童発達支援事業所てくてく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	0	●併設の保育所との共有スペースについては、予定や時間が重ならないよう配慮している。
	2	職員の配置数は適切である	10	0	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10	0	●絵カードや写真、マーク等利用し、視覚支援を行っている。 ●生活空間が2階にあるため、階段の昇り降りは必ず支援者が付き添うようにしている。 ●玩具の入れ替え時に写真表示を行っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10	0	●感染症予防のため、日々の消毒・清掃は徹底している。 ●公認心理師や作業療法士等の専門職からのアドバイスを受け、職員間で話し合い、各部屋の環境を作っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	10	0	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	0	●独自のアンケートや保護者向け評価表での意見を参考に改善するべき点を話し合い、次年度の運営につなげている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	0	●ホームページで公開し、保護者に案内をしている。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	10	●第三者評価の実施は未定。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	●講師を招いて研修を行っている。外部研修も積極的に参加している。 ●作業療法士や言語聴覚士等専門家と話す機会を設け、職員のスキルアップを目指している。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10	0	●見学、体験時の観察や保護者への聞き取りをもとにアセスメントを行っている。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	0	●アセスメントシートを利用して面談を行っている。 ●独自のチェックシートを作成し、子どもの育ちを保護者と確認している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10	0	●ガイドラインと照らし合わせ、個別支援計画を作成している。 ●支援内容を検討する際、職員の中でガイドラインの理解を深められるようにしている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10	0	●個別支援計画をもとに個々の記録や振り返りをしている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	0	●子どもの姿や成長発達を職員間で共通理解した上で、活動内容を立案している。

適切な支援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	0	●一人ひとりの姿に合わせたプログラムを考えている。 ●子どもに負担のない程度に変化をつけるようにしている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	10	0	●一人ひとりの姿に合わせ、集団活動への参加方法や個別活動での支援を保護者と一緒に考え、作成している。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	0	●療育終了時の振り返りやミーティングにて個々の支援内容や活動の際の支援方法を検討し、支援開始前の時間までに職員間で共有している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	0	●療育終了時の振り返りミーティングにて個々の支援内容や活動の際の支援方法を検討し、共有している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	0	●個別ファイルに一人一人の記録を取っている。 ●個別支援計画で決めた支援だけなく、日々の関わりの中で気づいた育ちに対して、支援方法を話し合い、改善につなげている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10	0	●担当保育士と計画を見直した後、保護者との面談を行っている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	0	●会議参加前に各担当職員と打ち合わせを行い、適切な人が参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10	0	●事後フォロー教室から入所する利用者が多いため、教室に参加したり、紹介したりする機会を作っている。 ●子育て支援センターや保健師、町内保育所、幼稚園等を交えた会議を定期的に行い、情報交換をしている。
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			●今年度は該当なし
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			●今年度は該当なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	0	●移行先への見学、移行先からの見学受け入れを行い、情報を共有している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	0	●幼保小中一貫教育プロジェクト、特別支援部会に参加し、各施設と連携をとるようにしている。 ●年長児に関しては、入学する学校と情報交換する機会を4月以降に予定。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	0	●地域交流会や研修会に積極的に参加している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	10	0	●併設保育所の子どもと戸外遊び等で自然とふれあう機会を作っている。 ●保護者に対して入園希望園の園庭開放等への参加を案内、必要に応じて同行し、障がいのない子どもと活動する機会を作っている。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	10	0	●所長が参加し、内容を共有している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0	●療育内で子どもの育ちについて話し、関わり方等を一緒に考え、共有している。 ●2～3か月に1回懇談を行っている。 ●独自のチェックシートを作成し、子どもの育ちを保護者と確認している。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	10	0	●保護者が子どもを理解したい、楽しく関わりたいと感じられるようグループワークや勉強会を行っている。 ●公認心理師による、ペアレント・プログラム、ペアレント・トレーニングを実施。子どもの行動理解につながっている。

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	0	●入所時の面談で行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10	0	●面談の機会を設け、支援計画の内容を保護者と共有し同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	0	●関係機関や専門分野の講師から助言を受け、広い視野で物事がとらえられるようにしている。 ●関係機関との連携をより深めていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	0	●保護者同士が連携していけるよう、保護者ワークや父サロン等保護者同士が話す場を設けている。 ●OBと情報交換、交流できる日を設けている。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0	●保護者からの申し出については迅速かつ適切に対応している。 ●保護者の様子に合わせ声を掛け、相談に応じるようにしている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10	0	●事業所だよりで行事や活動概要が把握できるようにしている。 ●アプリによる連絡、配信を行っている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10	0	●責任をもって法令遵守を行っている。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0	●ユニバーサルデザインを心がけ、誰でも分かりやすい情報発信をしている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	10	0	●日々の療育に民生委員、地域住民、OBのボランティアの方が参加している。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10	0	●緊急時に併設保育所と協力ができるよう、日頃よりマニュアルを共有し、合同訓練を行っている。 ●保護者に内容を周知できるよう、説明を行い、手にとれる場所にマニュアルを設置した。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	0	●併設保育所と同日に訓練を行い、避難の際に連携が取れるようにしている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10	0	●入所時の面談にて子どもの健康面ついて聞き取りを行っている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	0	●保護者、てくてく職員、栄養士との面談を行い、対応している。 ●アレルギー除去食対応、給食準備、食事中における配慮事項等、マニュアル化されている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	0	●事故におけるヒヤリハット、身体拘束・虐待についてのヒヤリハット集を作成し、共有している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	0	●町内で開催された虐待についての研修に全職員参加した。 ●職員のスキルアップのための研修を行っている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10	0	●虐待防止委員会内で身体拘束についても話し合いを行っている。 また職員に対しても研修を行っている。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。